

受験番号

氏名

二〇二一年度

武蔵野学院大学 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

一般選抜第二回入学試験

二〇二一年三月十六日実施

国語総合(二〇〇点 五〇分)

注意事項

- 一 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二 監督者の「解答はじめ」の指示があった後、速やかに問題冊子と解答用紙の両方の所定欄に受験番号と氏名を記入しなさい。
- 三 この問題冊子は、5ページあります。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 四 解答は、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。
- 五 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 六 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意をしますので、注意や指示に従ってください。従わない場合には、不正行為とみなされる場合があります。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。
- 七 試験終了後、問題冊子は回収します。

問一 次の——線部の漢字の読みを答えなさい。

(1) 兵糧攻めにあい、生きる糧を失った。

(2) 犠牲を払う必要はないと、懸念を払拭する。

(3) 滴り落ちる樹液を一滴ずつ採取する。

(4) 新しい芳香剤の売れ行きは芳しいと言えるものではない。

(5) 謀反を企てた家臣が主君の暗殺を謀る。

問二 次の空欄に入る漢字を使った熟語を四つの中から選び記号で答えなさい。

(例) らかに話す

ア、急流

イ、華麗

ウ、円滑

エ、潤沢

(正答) ウ (滑らかに話す)

(1) 彼らの意見とは たりが生じている。

ア、当然 イ、不足 ウ、見学 エ、隔月

(2) 噂が消えていないので彼女にとっては い一年となるだろう。

ア、騒動 イ、辛酸 ウ、恐怖 エ、甘味

(3) け負い業者と打合せする。

ア、懸命 イ、賭博 ウ、申請 エ、伝聞

(4) 大事な場面で気を引き める。

ア、締結 イ、占術 ウ、開閉 エ、中止

(5) 視察団が現地に く。

ア、濃淡 イ、解説 ウ、赴任 エ、吹雪

問三 次の四字熟語の空欄部分をカタカナの語群の中から選び、漢字で答えなさい。

(1) () 知新

(2) 我田 ()

(3) 起死 ()

(4) () 無根

(5) 取捨 ()

《語群》

カイセイ

オンコ

センタク

ジジツ

ムリヨウ

インスイ

問四 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

(1) 傍線部(一)について、「もつとソフトな力、知らず知らずのうちにわれわれに影響を行使している力」とは、何について述べたものか答えなさい。

(2) 傍線部(二)について、「関係の内にある自己というのは、既にもうそれだけで「真の自己」から逸脱したあり方だ」とどうして言えるのか、簡潔に説明しなさい。

(3) 傍線部(三)について、「疎外」とあるが、これはどういう状態を指しているか、文中の語句を使って答えなさい。

(4) 傍線部(四)について、「それ」とは何を指すか答えなさい。

(5) 傍線部(五)について、「他者とは「自己」にとって、構成成分のようなものである、とこそ言わねばならない」という筆者の考察の根拠を述べなさい。

(6) この文章の主旨を述べている部分を二十字で抜き出しなさい。

武蔵野学院大学 国際コミュニケーション学部
 国際コミュニケーション学科
 一般選抜試験第2回 解答用紙 2021年3月16日実施

受験番号

氏名

問一
(各2点)

| | | |
|-----|-------|-------|
| (1) | ひょうろろ | かて |
| (2) | はら | ふろしよん |
| (3) | したた | いってき |
| (4) | ほうしよん | かんば |
| (5) | むほん | はか |

問二
(各2点)

| | | | | | |
|-----|---|-----|---|-----|---|
| (1) | エ | (2) | イ | (3) | ウ |
| (4) | ア | (5) | ウ | | |

問三
(各2点)

| | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|
| (1) | 温故 | (2) | 引水 | (3) | 回生 |
| (4) | 事実 | (5) | 選択 | | |

※

| |
|----|
| 合計 |
|----|

※

| |
|----|
| 小計 |
|----|

問四

(1)

(5点)

外部の目、外部の声というもの

(2)

(15点)

自己が関係のうちにあることは、他人の評価（社会的価値もしくは外部の目や耳）に合わせることで可能になるから

(3)

(10点)

「真の自己」から逸脱したあり方

(4)

(5点)

真の自分

(5)

(15点)

「自己」なるものは、他者との関連の中で作り出され、作り上げられていく

(6)

(10点)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| は | 見 | つ | か | ら | な | い | 「 | 真 | の | 自 | 分 | 」 | と | は | 自 | 分 | の | 中 | に |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

※

小計